

『明るい社会を実現するために』

多久市立東原岸舎西溪校 7年1組 田栗 歌萌

みなさんの思いえがく明るい社会の中に、犯罪や非行をおかし、更生を目指している人やそれを支えている地域の取り組みの姿はありますか。これは、私が犯罪や非行、その立ち直りについて調べ、感じたお話です。

「犯罪や非行について、どう思いますか。」こんな質問をされたら、きっと多くの人は、「あってはならないこと」「防止しなければならないこと」と考えるでしょう。私も同じ意見です。しかし、この作文を書くにあたり、私は、犯罪や非行をした人達の立ち直りについていろいろな活動があることを知りました。私が犯罪や非行をしてしまった人達について知ることは、「罪を犯した後は、それぞれの処罰を受ける」ということだけでした。立ち直りや更生について考えるきっかけとなったのは、以前家のテレビで見たニュースです。未成年の人が罪を犯し、被害者家族は、加害者が懲役などの刑罰を受けることがないと知り、とても怒っていました。被害者家族は、大切な家族に危害を加えられ、もちろんその被害者本人も、こわかったと思うし、くやしかったと思います。私が被害者だったら、いつかまた、どこかで会っておそわれるかもしれない、という恐怖が一番にやってきて、知らない人と会うのが苦しくなるかもしれません。

でも、必ずしも未成年犯罪者が犯罪や非行をくり返すというわけではありません。罪を犯した理由も違えば、本当に反省して更生を目指す人がいるからです。心の底から誤った行いを悔やみ、正そうとする考えを支えるため、更生保護の担い手の存在があります。それは、「保護司」「協力雇用主」「更生保護女性会」「更生保護施設」「BBS会」などです。調べてみるまで私は知らなかったけれど、活動内容を見て、なんてすばらしい活動なんだろうと感じました。犯

罪、非行の前歴があつて定職できなかつたりしても、その罪を犯したことを承知の上で雇用し、立ち直りを支援してくれる「協力雇用主」や帰る場所がない人達に宿泊場所、食事を提供して自立に向けた生活指導を行ってくれる「更生保護施設」、罪を犯して「保護観察」を受けることになった人の生活を見守り、相談にのったり、指導したりしてくれる「保護司」などの取り組みで、心を支えられている人はたくさんいると思います。懲役されていたり、施設にいたりして、後に出ていった時、寝るところ、食べる物、お金もないままだとまた犯罪や非行をしてしまうのではないかと心配をしました。だからこそ、加害者が罪をくり返さないために、社会をより明るくするためにも、この取り組みに地域全体で協力したいです。また、この取り組みには、立ち直るための支援を望む人の他に、支えている人も多勢います。支えている人は立ち直りを望む人のために、立ち直りを望む人は、この社会で生きてゆくためにがんばっているのです、偏見や差別をする人達がいることを許したくありません。刑を終えて出所した人は周りからの根強い偏見や悪意のあるうわさをされることがあります。私も、悪意があつて犯罪や非行をする人はだれかを傷つけたり、悲しませたりしているので、きちんと罪をつぐなってもらうまで簡単にその行いを「仕方ない。」で許すことはできません。

でも、犯罪や非行を防ぐために、日常でできることがあります。学校でいつも一人ぼっちの子に、声をかけてみたり、近所の人にあいさつをするだけで、コミュニケーションを取るという小さなきっかけになります。どんなに小さなことでも、関係を深めればだれかの不安やストレスをやわらげて支えてあげられる存在になれると思います。自分の周りに悩みを相談できる人が一人いるのといないのでは大変差があつて、もっと多くの人に気軽になやみを相談できる人が身近

にいたら、未来の犯罪や非行を少しでも防ぐことができるのではないしょうか。一つの犯罪や非行を防ぐことで多くの人が悲しい思いをせずに済みます。立ち直りを目指す人への偏見や差別をなくし、地域で支え合い、なやみを相談できる人をつくることで、これからの社会を明るくできると信じています。